

# 露地でプール育苗

## 三重・JA伊勢 管理省力へ期待

### 県内初の試験栽培

【三重・伊勢】JA伊勢は、2024年産水稻の苗生産で、ビニールハウスを使わずに水を張ったプールで育てる「露地プール育苗」を試みている。3月中旬から取り組む露地プール育苗は、事例が少なく、県内では初めて。水を張った状態で苗を育てるため、かん水作業が容易で、管理作業の大幅な削減が期待される。

そろった苗が育てられる。また、露地での育苗も可能なため、ハウス建設費の削減、ビニール張りやかん水、追肥といった作業の省力化が期待できる。

試験に取り組む同JA

「ハウス育苗には、ハウスの建設費など初期投資がかかってしまう。管内の水稻生産者にも露地プール育苗技術を普及できれば、生産者の労力削減にもつながる」と話す。

同JAでは苗の引き渡しまで、定期的に生育を調査する。露地プール育苗の技術が確立すれば、管内の廃校グラウンドを活用した育苗も検討していく。

プール育苗は、水を張ったプール枠に出芽後の箱苗を置き、底面

給水で育てる。水切れしにくく、均一に水位を保つことで、草丈の



区（各80枚、計320枚）を設けた。生育状況や育苗に適した水温、病害の有無などを調べて育苗しやすい手法を検証する。

同JAの担当者は

「催芽した苗箱をプールに並べ、水温を測る同JAの担当職員」